



## ヨン様で思う私の「イケメン」

先日、幕張メッセで開催された「Korean Entertainment 10th Anniversary Awards in Japan」というイベント取材してきました。日本における韓流ブームの火付け役となった「冬のソナタ」放送から10周年を記念して、ブームの歩みなどを振り返りつつドラマや曲の人気ランキングを決定するという催しです。

イベントのメインは、やはり圧倒的な人気を集めて最後に登場したヨン様ことペ・ヨンジュン。壇上にヨン様が登場するや、数千人の女性ファンが一斉に黄色い声だけでなく、泣き声にも似た呻きを発し、何ともいえない「空気」が立ちこめます。私は以前にも1回、ヨン様が多数のファンの前に登場したイベント取材したことがあるのですが、その時にも全く同じ雰囲気には圧倒されたのを、すぐに思い出しました。

私は残念ながら韓流にはあまり興味がないばかりか、そこまで熱狂的に応援する対象もないので、ただただヨン様パワーのすごさに面食らうばかり。確かに、年齢の割にスタイルや容貌を若々しくキープしていて、並々ならぬ努力をしていることがうかがえます。また、東日本大震災直後に

10億ウォンを寄付するなど、スターと呼ぶにふさわしい行動も素晴らしいと思います。

ところで韓流ブームといえは、ここ数年「イケメン」という言葉が普通に使われるようになりました。広義では「イケてる面」つまり二枚目、ハンサムを指す造語だそうですが、特に印象深かったのは、戦国武将をやたらに「イケメン」扱いするブームの到来です。彼らはゲームのキャラクターやドラマなどにおいて妙に整った精悍な容姿で描かれ、加えてストイックだったり忠義であったり、人格的な部分での付加価値も必ずと言っていいほどあり、多くの女性の人気を集めました。どうやら、イケメンといっても外見のことを指すだけではないのかも知れません。

私や周りの友人も、容姿だけで男性に惹かれることはまずありませんし、どちらかという「自分が好きになった相手をイケメンに感じる」タイプ。当たり前ですが性格や人格が最も大切な要素ですし、むしろ私は外見のいい人は信用ならぬのではないかと、穿った見方をしてしまう、ひねくれたところもあります（すみません）。しかしもちろん、容姿も中身もいい人は少なくないはずで、今の時代におけるその代表格が、多くの女性たちを熱狂させるヨン様である、ということならば納得できるというものです。

韓流や戦国武将といったブームによって「イケメン」が随分浸透して来たものの、やっぱり中身も揃ってこそ…という部分は譲れないところですね。中身の善し悪しは主観によるところが多いとはいえ、今後も本物の「イケメン」に惹かれる女性は、ますます増えていく気がします。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（パジリコ、07年）

